
OB 通信

2010 年 No.4

(2010.8)

全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区予選会

- ・永井瑞希(M2)と及川まりや(2)が東北学連選抜として全日本女子駅伝に出場決定

全国七大学対校陸上競技大会

- ・男子総合 5 位、女子総合 6 位
 - ・男子 100、200m で 3 年ぶりの決勝進出！！
 - ・杉本和志(3)がやり投で 64m72 の大会記録更新！！
-

・全日本大学駅伝・女子駅伝東北地区予選の結果	2~3 ページ
・全国七大学対校陸上競技大会の結果	3~14 ページ
・自己記録更新者一覧	15 ページ
・今後の予定	16 ページ
・編集後記	16 ページ

猛暑の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、主に秩父宮賜盃第 42 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区予選会兼第 28 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区予選会、ならびに第 61 回全国七大学対校陸上競技大会兼第 21 回全国七大学対校女子陸上競技大会の結果をお伝え致します。

秩父宮賜盃第 42 回全日本大学駅伝対校選手権大会東北地区予選会兼第 28 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区予選会(7/18) 於 仙台市陸上競技場

真夏日の中、仙台市陸上競技場にて全日本大学東北地区予選会が行われました。男子は 10000m、女子は 5000m を走り、合計タイムで競いました。真夏日だけにじっとしていても汗が出てくるような過酷な状況でした。東北大学男子チームは暑さのためか全員での完走が叶わず、全日本大学駅伝への出場を逃しました。女子チームは団体では 4 位でしたが、永井瑞希(M2)と及川まりや(2)が東北学連選抜として全日本大学女子駅伝への出場権を獲得しました。

● 男子団体戦結果

氏名	学年	記録	個人順位
島田 健作	M2	32'41"65	5
林 亮輔	M2	33'04"97	9
斎藤 純	M2	33'22"35	12
尾形 翔平	2	33'36"27	15
新田 和樹	M1	33'41"24	16
柴田 拓哉	M2	34'35"82	27
平 聖也	M1	34'43"74	29
杉山 祥太郎	2	DNF	



写真：左が島田、右が斎藤

● 女子団体戦結果

総合 4 位 1 時間 56 分 38 秒 34

氏名	学年	記録	個人順位
及川 まりや	2	17'42"12	2
永井 瑞希	M2	18'28"77	10
鈴木 はるか	2	19'18"64	15
千葉 絵里子	4	20'17"01	21
佐藤 仁美	3	20'24"45	23
大淵 真波	M2	20'27"35	24



写真：自分のペースを保ち走る永井

応援に来て下さった先輩方(敬称略)

井上幸信 佐藤源之 眞山隆徳 吉田真人 鈴木義教 野崎莉代 荒川淳一 小林和也
菅井裕之 中島大 中山裕康 長谷川翔平 原田貴正 八木洋光 相澤直人 池田絵里
岡本聖司 佐藤圭祐 佐藤敬直 田中裕志 寺川亮 中野一誠 橋本耕太郎 渡辺貴哉
落合裕規 菊池亜加里 白井孝明 鈴木雄輔 飛内茜 望月明人

また原田貴正さんと中島大さんにはスポーツ飲料の差し入れを頂きました。

この他にも多くの OB・OG の方が応援に来て下さったと思います。全員のお名前を把握しきれず、申し訳ありません。応援ありがとうございました。

第 61 回全国七大学対校陸上競技大会

兼 第 21 回全国七大学対校女子陸上競技大会(8/1) 於 瑞穂公園陸上競技場

8月1日に愛知県の瑞穂公園陸上競技場にて七大戦が行われました。男子総合5位、女子総合6位でした。たくさんの OB・OG の方々が応援に来て下さいました。ありがとうございました。

～主将挨拶～

はじめに、今年の七大戦におきましても三秀会会員の皆様からたくさんの応援や差し入れをいただきましたことを感謝します。35℃を超える暑い名古屋での大会でしたが無事に競技を終えることができたのは皆様のご支援のおかげであります。ありがとうございました。

このご期待にもこたえるべく今年も総合優勝を目指して戦いましたが、結果は男子総合5位、女子総合6位という非常に悔しいものとなりました。男子では複数の入賞があった種目がたった2種目しかなく、総合得点はトップの阪大の半分にも届きませんでした。女子も入賞数は1で対校得点では他大学に遠く及びませんでした。この結果は私たちの実力不足としかいえないと思います。

しかし、今大会では自己ベストを更新することができた選手が多く、男子では近年課題とされてきたトラック種目で全種目決勝進出を果たすなどチーム全体として成長を実感できる場面もありました。現在の東北大学陸上競技部は次の1年間の過ごし方次第では入賞や表彰台争いがどの種目でも十分可能なレベルにあります。後輩たちにはこのことを忘れずに練習に取り組んでもらいたいと思います。そして今回が最後の私たち4年は総合優勝の目標を後輩たちに託して先輩方とともに全力でサポートしていきます。

この1年間、本当に多くの方に支えられ主将を務めることができました。最後の七大戦は主将としてベストの結果を残すことはできず、また総合優勝を逃した悔しさも消えませんが、あれほど楽しい時間を過ごすことができるとても幸せでした。本当にありがとうございました。世代が変わって新チームになりましても東北大学学友会陸上競技部へのご支援よろしくをお願いします。

東北大学陸上競技部 主将 岩崎辰哉

第 61 回全国七大学対校陸上競技大会 対校得点

1	大阪大学	115 点	(T : 47 点(2))	F : 68 点(1))
2	京都大学	65.5 点	(T : 39 点(4))	F : 26.5 点(3))
3	名古屋大学	64 点	(T : 51 点(1))	F : 13 点(5))
4	東京大学	56 点	(T : 40 点(3))	F : 16 点(4))
5	東北大学	53.5 点	(T : 23 点(5))	F : 30.5 点(2))
6	北海道大学	28 点	(T : 20 点(6))	F : 8 点(6))
7	九州大学	17 点	(T : 11 点(7))	F : 6 点(7))

第 21 回全国七大学対校女子陸上競技大会 対校得点

1	大阪大学	28 点	(T : 20 点(1))	F : 8 点(2))
2	名古屋大学	23 点	(T : 16 点(2))	F : 7 点(3))
3	北海道大学	14 点	(T : 5 点(4))	F : 9 点(1))
4	京都大学	6 点	(T : 6 点(3))	F : 0 点(5))
4	東京大学	6 点	(T : 0 点(7))	F : 6 点(4))
6	東北大学	2 点	(T : 2 点(5))	F : 0 点(5))
7	九州大学	1 点	(T : 1 点(6))	F : 0 点(5))

トラック

男子 100m 予選

1-7	4 着	伊藤 亮輔(2)	11"10(+0.6)
2-2	5 着	鈴木 貴幸(4)	11"22(-0.4)
3-2	7 着	富樫 宏明(4)	11"68(+1.7)

伊藤はまずまずのスタート。上体にやや力が入り、ぶれてはいたが、順調な加速で前との差をつめて行き、4 着でフィニッシュ。好タイムでプラスの 2 番手で決勝進出を果たした。

鈴木は良い反応で飛び出し、中盤に順調な加速ではあったが、隣にじりじりと離され、競り負けてしまった。

富樫は反応良く飛び出し、スタートの時点では横一線となった。中盤で少しずつ他の選手に遅れをとり、必死に追い上げるも 7 着でフィニッシュ

男子 100m 決勝

8 位 伊藤 亮輔(2) 11"16(+1.8)

近年東北大からは 100m での決勝進出者がいなかったが、今年は伊藤が決勝進出。伊藤は抜群のスタートをきった。隣の選手に先行し、入賞の期待が高まったが、徐々に遅れをとり 8 位。悔しい結果ではあったが、来年の得点の可能性を見る事ができた。



写真：集中力を高める伊藤

女子 100m 予選

1-7 4着 下島 千歩(1) 13"30(+0.8)
2-8 4着 中山 なつみ(1) 13"17(+2.0)

下島は良い反応のスタートであったが加速の際に隣の選手に置いていかれた。終盤に3着争いをするも惜しくも4着でフィニッシュ。プラスの2番手で決勝に進出。

中山はスタートから隣の選手に先行されてしまった。好調な加速で3番手に食い込んだように見えたが、惜しくも4着。プラスの1番手で決勝に進出。

女子 100m 決勝

5位 中山 なつみ(1) 13"21(-0.9)
8位 下島 千歩(1) 13"49

中山はスタートで少し出遅れたが、徐々にスピードを上げ、順位を上げていき5位。あと1つで得点と惜しい結果であった。

下島は反応の良いスタートではあったが、思うようにスピードに乗れず、8位でフィニッシュ。



写真：右から下島、中山

男子 200m 予選

1-7 3着 鈴木 一輝(3) 22"38(+1.4)
2-2 4着 鈴木 貴幸(4) 23"81(+0.8)
3-7 4着 伊藤 亮輔(2) 23"12(-0.2)

鈴木(一)は良いスタートをきった。順調にスピードに乗っていき、22秒台の好タイム

を出し3着。プラスで拾われ、決勝進出。

鈴木(貴)はフライングによる再スタートにも動じず、反応の良いスタートをきった。100mまでは順調であったが、徐々に失速して4着でフィニッシュ。

伊藤は反応良くスタートをきった。周りとの差はほとんどなかったが、スムーズにスピードに乗れず、遅れをとった。ラストに挽回を狙うも4着。

男子 200m 決勝

6位 鈴木 一輝(3) 22"13(+4.2)

強い追い風の中でのスタートとなった。男子100mと同様、東北大からは久しぶりの決勝進出で期待が高まった。鈴木は抜群のスタートではあったが、外側の選手との差をつめることはできなかった。ラスト80mくらいで横一線となり、必死に前に出ようと走り、何とか6位でフィニッシュ。200mでは久しぶりに得点した。

男子 400m 予選

1-3 3着 高林 佑輔(3) 50"08
2-7 6着 遠藤 智之(4) 51"57
3-2 7着 高橋 純(2) 52"64

手強い選手揃いの1組目には高林が出場した。高林は前半から積極的な走りを見せた。外側の選手についていき、周りが失速していく中で3番手につけた。そのまま粘り3着でフィニッシュし、プラスの1番手で決勝へと駒を進めた。

遠藤は抜群のスタートで、序盤から前の選手を捕らえどんどん加速して行った。ところが後半に失速し、苦しみながらのゴール。結果は6着であった。

高橋はフライングによる再スタートの中でも反応良くスタートをきった。200m付近で置いていかれ、苦しい展開となり、ラストでも挽回できず、7着でフィニッシュ。

男子 400m 決勝

3位 高林 佑輔(3) 49"97

高林は短距離 PC としての意地を見せた。スタートの反応は良く、ぐんぐんと加速。外側の選手が速く先行されたが、高林も必死についていった。後半でもスピードは落ちず、ラスト 100m で怒涛の表彰台争いを繰り広げた。ここで意地を見せ、見事に 3位と表彰台を勝ち取った。



写真：堂々の表彰を受ける高林

女子 400m 予選

1-8 6着 房内 まどか(2) 66"04

2-3 5着 下島 千歩(1) 62"02

房内は周りと同様のタイミングで良いスタートをきった。第 2 コーナー辺りで内レーンの選手に抜かれ、さらに後方の選手にも距離を縮められた。第 3 コーナーは 7 番手で通過し、必死に前に食らい付くも及ばず、6 着でフィニッシュ。

下島はまずまずのスタートで序盤は前の選手との距離を保ち、ついていった。バックストレートで追い上げを見せ、第 4 コーナーではトップ争いに絡んだが、失速してしまい 5 着でフィニッシュ。

男子 800m 予選

1-3 4着 大野 良輔(2) 1'59"38

2-6 3着 本間 亮太(4) 1'57"62

3-3 2着 辻川 優祐(2) 2'00"35

激戦の 1 組目には大野が出場。前半から積極的な走りで先頭を引っ張った。400m の通過は 58 秒。そのまま先頭をキープできるかと思われたが、2 人に先行を許した。ラスト 50m で激しい 3 着争いを繰り広げたが、惜しくも 4 着。

本間は 200m くらいまでは 3 番手につけた。ラスト 1 周の所で 2 番手に浮上。ラスト 200m でスパートをかけ、1、2、3 着でほとんど差はなかったが、惜しくも 3 着であった。

辻川は 1 周目から積極的に前に出て先頭に立った。400m を 60 秒で通過。ややスローな展開であった。ラスト 300m で後続に迫られたが何とか 2 番手を保ち、競りながらも 2 着でゴール。

男子 800m 決勝

7位 本間 亮太(4) 1'59"10

8位 辻川 優祐(2) 2'01"40

優勝を狙う本間と辻川が出場。序盤からハイペースの展開となり、本間と辻川は後方につけ、様子を伺った。400m を本間が 56 秒、辻川は 57 秒で通過。本間はラスト 300m で加速し、4 番手に浮上した。しかし、残り 120m で失速し、順位を落として 7 位。辻川は思うようなスパートがかけられず、8 位。



写真：必死に前を追う本間と辻川

女子 800m 決勝

- 3位 及川 まりや(2) 2'16"96
11位 小高 真依(2) 2'36"23

今季好調な小高と長距離女子のエース及川が出場した。序盤、及川が第3集団につけ、小高は後方で追いかける形となった。及川は400mを67秒、小高は75秒で通過。及川は徐々に追い上げて第2集団に迫り、小高は落ちてきた選手を着々と抜いていった。ラスト100mで及川は3番手につけ、2番手の選手と競りながら惜しくも3位でフィニッシュ。小高も必死の走りで11位。



写真：表彰での及川

男子 1500m 決勝

- 7位 荒川 和哉(1) 4'04"21
9位 三上 和樹(1) 4'08"38
11位 尾形 洋平(3) 4'09"01

スタート時に東大の選手が転倒するなど激しい場所取りがあった中、3人は良いスタートをきった。序盤、尾形が前の方で走り、三上、荒川は集団の中ほどにつけた。400mを尾形が63秒、三上、荒川が65秒で通過。その後、集団が2つに分かれ始めた。3人は第2集団の前方につけた。残り2周になり、荒川がスピードを上げ始めた。この時点で先頭とはだいぶ離れていたが、着々と順位を上げた。ラスト1周になり、3人ともスパ

ートをかけた。荒川は猛追を見せ、7位。三上と尾形は競りながら走り、ラストで三上が前に出て9位。尾形は11位でフィニッシュ。タイムは3人とも良かったが、惜しくも得点できなかった。

女子 3000m 決勝

- 6位 鈴木 はるか(2) 11'15"05
7位 千葉 絵里子(4) 11'28"10

スタート直後から名大の選手が飛び出し独走となった。千葉は第3集団につけ、鈴木はその少し後ろにつけた。1000mの通過は千葉が3'26"、鈴木は3'37"。1200m過ぎに千葉はやや遅れ始め、2000m通過は7'18"、鈴木は自分の走り続け、7'27"。その後、鈴木は着々と順位を上げ、しっかりとした走りで6位。千葉は苦しい走りで7位。あと少しで得点圏内であった。



写真：順調に走る千葉

男子 5000m 決勝

7位 大場 直樹(4) 15'31"69

10位 早坂 達也(4) 15'51"46

13位 尾形 翔平(2) 16'02"84

長距離パートの主力選手である大場、早坂、尾形が出場した。

レース序盤はスローペースで展開し、全体として大きな集団を形成。大場は前方、早坂と尾形は後方でレースを進めた。2000mは6'15"前後で通過し、3000m手前で集団がばらけ始めた。大場は5位集団につけていたが、早坂と尾形は集団から遅れ始め苦しい展開となった。4000m通過時点で大場は6位であったが、ラスト200mで抜かれ、惜しくも7位。早坂はスパートをかけたが一步及ばず10位。尾形は終盤苦しい走りで13位。



写真：猛暑にも負けずに走る大場と早坂

男子 110mH 予選

1-4 1着 岩崎 辰哉(4) 15"45(+0.8)

2-5 3着 渋谷 知暉(2) 15"65(-0.7)

3-5 2着 一ノ倉 聖(4) 15"37(+0.8)

岩崎は素晴らしいスタートを見せスムーズに加速。その後も危なげない走りを見せ、最後は流し余裕の1着。

渋谷はまずまずのスタート。渋谷を含め

た4人でトップを争う形となり、中盤にやや遅れかけたが、ラストで持ち直し3着でフィニッシュ。

一ノ倉はスタートでやや出遅れたが、加速はスムーズでどんどん順位を上げていった。後半まで順調に走り、2着でフィニッシュ。

男子 110mH 決勝

2位 岩崎 辰哉(4) 15"02(-0.7)

3位 一ノ倉 聖(4) 15"22

7位 渋谷 知暉(2) 15"50

岩崎は1台目から積極的に攻め、トップを争ったが、3台目あたりで少しリードを許した。何とか食らい付きトップとの差を縮めていったが、惜しくも2位。優勝を狙っていた岩崎にとっては悔しい結果となった。

一ノ倉は1台目の入りから少し遅れをとった。しかし、徐々に加速して、怒涛の追い上げから3位と表彰台を勝ち取った。七大戦での初の表彰台ということもあり、喜びのフィニッシュであった。

渋谷はスタートから出遅れた。その後挽回を狙うも思うように順位を上げることはできず、7位と悔しい結果となった。



写真：入賞した岩崎(左)と一ノ倉(右)

男子 400mH 予選

1-6	2着	岩崎 辰哉(4)	56"90
2-7	5着	藤井 翼(2)	60"09
3-3	7着	一ノ倉 聖(4)	59"26

岩崎は内側の選手に詰められたが、外側の選手を捕らえ、積極的に飛ばした。ラストに内側の選手に並ばれるが、粘りの走りで競り勝ち2着でフィニッシュ。

藤井は反応良くスタートをきった。順調に見えたが、徐々に周りの選手に遅れをとり、苦しい展開。ラストで1人抜くも5着。

一ノ倉は前半から果敢に攻め、好調な走りを見せた。しかし、6台目のハードルでバランスを崩し失速。その後、遅れを取り戻すことができず、7着でフィニッシュ。

男子 400mH 決勝

7位 岩崎 辰哉(4) 59"16

岩崎は好調なスタートをきった。3台目ハードルまでは2番手ほどをキープしていたが、疲労の影響か徐々にスピードが落ち、他の選手から離された。そのまま挽回できず、7着でフィニッシュ。

男子 3000mSC 決勝

5位 尾形 翔平(2) 9'37"29

10位 箭内 正輝(4) 10'10"04

共に得点経験のある箭内と尾形が出場した。序盤、尾形、箭内共に自分のペースを守り、集団の中ほどについた。2周した所で尾形が前に出始めた。箭内はややきつくなり遅れ始めた。2000mを前に尾形も先頭から少し離れたが、離されまいと必死に走り4番手ほどをキープ。箭内は遅れて10番手。2000m通過は尾形6'21"、箭内6'40"。ラスト1周になり、尾形は4位争いの中で猛烈スパートをかけるが、遅れをとり、1つ順位を落として5位でフィニッシュ。対校の初戦で得点することができた。箭内は苦しい

中でのスパートで序盤からの位置をキープし10位。



写真：挽回を目指して走る箭内

男子 4×100mR 決勝

5位 42"40

岡崎(1)-伊藤(2)-鈴木一(3)-鈴木貴(4)

1走の岡崎は反応の良いスタートで、周りの選手と接戦を繰り広げ2走に繋ぐ。バトンパスのタイミングが上手く合わず、少し遅れた。2走の伊藤は必死に挽回を狙い、3走へ。3走の鈴木(一)は何とか差を保つが追い上げは叶わず、4走へ。4走の鈴木(貴)は必死に追うが、惜しくも競り負け5位でフィニッシュ。

女子 4×100mR 決勝

6位 53"14

下島(1)-中山(1)-星(1)-房内(2)

1走の下島は勢い良く飛び出したが、徐々に遅れをとった。2走の中山へのバトンパスが少し詰まり、中山は必死に追いつけたが差を縮めることはできず、3走へ。3走の星は粘りの走りで何とか差を保った。4走の房内も必死に走るも挽回できず、6着。1、2年生での出場であるので来年は順位を上げてくれることを期待したい。

男子 4×400mR 決勝

2位 3'21"72

瀧澤(4)-岡崎(1)-遠藤(4)-高林(3)

瀧澤と岡崎は三段跳の決勝途中での出場となった。1走の瀧澤は他のチームによく付いていった。北大に先行を許すも他のチームとは接戦を繰り広げ、2走へ。2走の岡崎は前半から猛追をかけた。一気に2番手に飛び出し、前の選手に迫った。3走の遠藤も前半から飛ばしたが距離をつめることはできなかった。少し後ろから迫られる感じでバトンを受け取った4走の高林は積極的に攻めた。後ろとの差はどんどん開いたが、前との差を縮めることができず、惜しくも2位。目標の部記録更新は叶わなかったが、前評判を覆す結果を出した。



写真：2位の東北大チーム

フィールド

男子走高跳決勝

12位 渋谷 知暉(2) 1m75

13位 奥 裕之(1) 1m75

奥は1m65から、渋谷は1m70から挑戦した。奥は危なげなく1m65、1m70とも1回でクリア。渋谷は1m70の1回目では最

高点を上手く合わせられず失敗したが、2回目には修正しクリア。1m75では渋谷は1回目、奥は2回目でクリア。まだ余裕があるように思われたが、1m80では共に3回とも失敗に終わった。共に惜しい跳躍が見られたため、1m80を跳ぶ力は持っていると思われる。

女子走高跳決勝

7位 星 麻沙美(2) 1m40

星は1m30からの挑戦。1回目は踏切にやや力がなく失敗したが、2回目には高さがあり、余裕の成功。1m35、40ともに1回目で成功し、1m45に挑戦した。高さが上がり少し緊張したのか、助走のリズムが崩れ跳躍に高さが出なかった。3回の内に調節することができず、1m45は跳ぶことができなかった。

男子棒高跳決勝

5位 藤井 翼(2) 3m40

NM 高橋 理寛(2)

NM 佐藤 裕貴(1)

藤井は3m20から挑戦。1回目でクリアし、高さも出ていた。3m40では2回失敗し追い込まれたが、3回目には修正しリズムの良い助走でクリア。3m60では1回目に惜しくもバーに足が当たり失敗してから修正できず、3回とも失敗に終わった。

高橋は4m20から挑戦したが、1、2回目では助走が合わず、跳ぶことすらできなかった。3回目は何とか跳ぶも途中でバーに足が当たり失敗。記録を残すことができなかった。記録を残せていれば表彰台であっただけに悔しさも大きい。

佐藤は3m40から挑戦したが、3回とも跳ぶことすらできなかった。助走が合わず、跳躍体勢にすら入れず、悔しい結果となった。

男子走幅跳決勝

- 3位 鈴木 一輝(3) 7m00(+0.9)
4位 岡崎 和貴(1) 6m97(+0.4)
17位 安井 令(2) 6m23(+1.0)

鈴木は1跳目から7m00の大ジャンプを見せた。1跳目終了時点では1位と優勝の期待が高まったが、2跳目で京大の選手に逆転を許した。鈴木はそのまま記録を伸ばせず、決勝へは2位通過。決勝でも踏切前にやや失速が見られ、記録を伸ばすことができなかった。1人に逆転を許したが表彰台は守り切った。

岡崎は1跳目から6m90を跳び、鈴木に続いて2位につけた。決勝へは3位通過。4跳目に踏切がばっちり合い、6m97を跳び、鈴木に迫ったものの順位は上げることはできなかった。惜しくも表彰台は逃したが、安定感のある跳躍であり、来年は表彰台が期待される。

安井は1跳目、足が合わず完全な失敗。2跳目には踏切は良かったが、1跳目の失敗をひきずってか踏切前の失速が目立った。3跳目は良い跳躍ではあったが、惜しくもファールとなってしまった。



写真：7mの大ジャンプをした鈴木

女子走幅跳決勝

- 6位 中山 なつみ(1) 4m78(+1.0)
10位 星 麻沙美(1) 4m20(+1.3)

中山は1跳目では踏切板の手前で踏み切り、まだまだ記録の向上に期待が高まった。2跳目で4m78を跳び、6位につけた。何とか4位以内に入りたかったが、決勝では力みが目立ち、フォームや助走にキレがなく記録を伸ばすことはできなかった。

星は1跳目では足が合わずファール。2跳目では逆に踏切板前での跳躍となり、4m20。踏切が合っていたら4m40近くはあったと思われるだけに惜しい跳躍であった。その後、記録を伸ばすことはできず、10位。

男子三段跳決勝

- 4位 瀧澤 翔太(4) 14m34(+3.0)
7位 岩崎 辰哉(4) 13m99(+2.0)
8位 岡崎 和貴(1) 13m94(+2.1)

瀧澤の1跳目は踏切板の前で踏切となり、記録はいまいちであったが、次の跳躍に期待が高まった。2跳目に14m34を跳び、2跳目終了の時点で3位につけた。その後記録を伸ばせず、4位で決勝に進出。決勝はマイルとかぶったために2回パスしてラスト1本だけ跳んだ。踏切は合っていたが、やはりマイルでの疲れから高さが出ず、結果は4位で惜しくも表彰台は逃した。

岩崎は1跳目から13m82を跳んだ。全体的に安定した跳躍ができていたが、最後の伸びが足りない感じであった。決勝へは8位で通過。何とか記録を伸ばして6位以内に入りたいところであった。ラスト6跳目に踏切板の前から跳躍するも記録を伸ばし13m99。踏切が合っていれば14mを超えただろうに悔しい結果ではあるが自己ベストであった。

岡崎は伸びがない跳躍でなかなか記録が出せない様子であった。3 跳目に 13m94 で決勝へは 7 位で通過したが、マイルのために決勝では 1 回のチャンスしかなかった。やはりマイル後の跳躍にはバネが残っていなかったようで、良い跳躍はできなかった。

男子砲丸投決勝

- 1 位 柳澤 邦彦(2) 12m11
11 位 杉本 和志(3) 9m27
14 位 山崎 大志(1) 8m88

柳澤は 1 投目に 11m88 で早速 1 位をキープ。3 投目には 12m11 と高さのある投擲でさらに記録を伸ばした。決勝ではかなり良い投げができていたが、右にそれる投げが目立った。記録は伸ばせなかったものの、ダントツの 1 位であった。

杉本は 1 投目にスピードを活かし 9m27 を投げた。もう少し高さが出ると良いが、まだパワー不足。あと少しで決勝進出であったが叶わず、11 位。

山崎は 1 投目では身体を上手く使えていない感じで記録はいまいち。3 投目ではスピードに上手く乗れ、8m88 の自己ベストを投げた。



写真：優勝した柳澤

男子円盤投決勝

- 1 位 柳澤 邦彦(2) 40m40
5 位 山崎 大志(1) 27m55
13 位 藤井 翼(2) 26m67

柳澤の 1 投目は丁寧な投げであったが、身体が動いていないようであった。2 投目でもようやく円盤に力が伝わり始め、何とか 39m06。決勝には 1 位で通過したが、2 位の選手と大差はなく、周囲にも不安がよぎった。決勝ではスピードを上げて投げたが、なかなか安定した投げができなかった。6 投目で少し体勢がぶれたものの、円盤には勢いが伝わり 40m を越えた。やはり昨年と比べると記録が出せず、ひやっとする場面もあったが、優勝は死守した。

山崎はターンに意識が行き過ぎていたせいか、円盤の軌道があまり良くなかった。円盤がぶれながら飛ぶ姿が目立ち、記録が出なかった。2 投目の 27m55 の時も円盤がぶれていた。

藤井は棒高跳と重なっていたため、集中した投擲があまりできなかった。1 投目しか投擲することができず、他はパスという形で良い記録は出せなかった。

男子ハンマー投決勝

- 6 位 柳澤 邦彦(2) 30m82
10 位 山崎 大志(1) 23m45
12 位 稲田 和明(2) 22m39

ファールが多発しやすいハンマー投で、柳澤は 1 投目から記録を残すも、フィニッシュ動作の際に足をあまり使えていない感じで高さが出なかった。3 投目によりやく 30m を越え、7 位で決勝進出。決勝では足を使うことを意識し、30m を越える投げが 2 本出るも、1 発が出ずに記録は僅かしか伸ばせなかった。しかし、伸ばした数十 cm で何とか 1 つ順位が上がり、6 位を勝ち取った。

山崎は身体の軸がぶれ、回転が安定しなかった。まだ練習量が少ないため仕方ないが、足の運びは上達しているように感じた。まだ1年生であるので今後に期待したい。

稲田は回転のスピードを上げるとまだ安定せず、慎重に回っているようであった。やはり思うように回転ができないようで、良い結果を出すことはできなかった。

男子やり投決勝

1位 杉本 和志(3) 64m72 GR

10位 稲田 和明(2) 46m95

13位 高橋 航(1) 45m28

自身の持つ大会記録の更新に期待が寄せられていた杉本はなかなか良い投げができなかった。いつもに比べ初速の遅さが目立ち、ヤリにも伸びがなかった。3投目によりやく60mを越えたが、惜しくもフェールとなかなか流れをつかめなかった。決勝ではクロスでの身体のひねりを増やし、腰のひねりを意識して挑み、ようやく60m以上の

記録をマーク。徐々に調子が上がり、初速はいつもの調子を取り戻したようであった。ラスト6投目でいきなり記録を伸ばし、64m72で自身の大会記録を更新し優勝を果たした。

稲田は勢いのある助走で1投目から46m88をマークし、調子は良いようであった。その後は悪くはない投げであったが、少し体が縮こまった窮屈な動作が目立ち、記録を伸ばすことができず、惜しくも10位で決勝へ進むことはできなかった。

高橋は練習投擲を行っている時から肘に違和感をあつたようで、思いきりのある投げができていなかった。やはりヤリに勢いがなく、痛みを我慢するような様子が目立った。3投目に痛みを無視して投げたが、いつも通りの投げができず、決勝に進めなかった。持ち記録では上位に位置していただに余計に悔しい結果となった。

応援に来て下さった先輩方(敬称略)

富田明夫 宮崎鉄男 村橋光臣 岩松正記 彦坂幸毅 佐藤友彦 大塚祐治 千葉雄司
根本昇 吉川雄郎 山口能史 石原武雄 斎藤健太 佐藤道由 大森圭祐 斎藤陽
小平圭一 畑山峻 渡辺翔太郎 鈴木義教 永橋浩二 野崎莉代 松本洋 青柳光裕
五十嵐さやか 川口亮平 小林和也 中島啓太 中山裕康 原田貴正 藤川誠 八木洋光
池田絵里 宇田侑平 岡本聖司 加藤聡 神林啓人 斎藤純 佐藤圭祐 佐藤敬直
柴田拓哉 島田健作 田中裕志 永井瑞希 中野一誠 脇坂美穂子 今泉卓真 落合裕規
金子勇介 柴田智弘 白井孝明 平聖也 飛内茜 中道尚史 新田和樹 望月明人

この他にも多くのOB・OGの方々が応援に来て下さいました。全員のお名前を把握しきれず申し訳ありません。また、今回使用しておりましたクーラーボックスはOBの方々の寄付により頂いたものです。さらに多くのOB・OGの方々から水、スポーツ飲料、氷などたくさん差し入れを頂きました。大変暑い中でしたので、とても助かりました。忙しい中で駆けつけて頂き、誠にありがとうございました。

今回、新たに大会新記録が生まれましたので、七大戦での大会記録保持者の最新版を掲載します。

七大戦記録保持者

男子 1500m	橘 明德	3'52"23	第 55 回(2004)
男子 5000m	橘 明德	14'38"98	第 55 回(2004)
男子円盤投	柳澤 邦彦	44m48	第 60 回(2009)
男子やり投	杉本 和志	64m72	第 61 回(2010)

#自己記録更新者一覧(6/26~8/1)

男子

・100m

伊藤 亮輔(2)	11"10	(七大戦)
鈴木 貴幸(4)	11"22	(七大戦)
鈴木 一輝(3)	11"22	(七大戦)
中野 一誠(M2)	11"42	(七大戦)
鬼丸 諒(2)	11"93	(七大戦)

・200m

鈴木 貴幸(4)	23"14	(七大戦)
----------	-------	-------

・1500m

近藤 一樹(2)	4'13"56	(七大戦)
菅野 均(2)	4'14"60	(七大戦)
高田 健吾(2)	4'25"54	(七大戦)

・3000m

島田 健作(M2)	8'48"88	(仙台市長距離記録会)
-----------	---------	-------------

・110mH

一ノ倉 聖(4)	15"22	(七大戦)
----------	-------	-------

女子

・100m

中山 なつみ(1)	13"17	(七大戦)
下島 千歩(1)	13"30	(七大戦)

・800m

及川 まりや(2)	2'16"96	(七大戦)
-----------	---------	-------

・5000m

鈴木 はるか(2)	19'18"64	(全女子選会)
小高 真衣(2)	19'53"08	(全女子選会)

#今後の予定

9月10～12日	天皇賜杯 第79回日本学生陸上競技対校選手権大会 国立競技場
9月24～26日	国公立22大学対校陸上競技大会 三ツ沢公園陸上競技場
10月2～3日	東北学生陸上競技選手権大会 仙台市陸上競技場
10月9日	OB戦 評定河原競技場

#編集後記

まず、副務からお願いがあります。住所などに変更がございましたら、副務までご連絡をお願いします。

登録情報変更の連絡先

住所：〒980-0815 宮城県仙台市青葉区花壇2-1 評定河原グラウンド内
東北大学陸上競技部三秀会

Mail : hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp

部として目標としてきました七大戦が終わりました。たくさんのOB・OGの方々が応援に駆け付けて下さいました。東北大学陸上競技部を代表しましてお礼を申し上げます。ありがとうございました。やはりたくさんの方の応援がありますと気合というものが違いますね。良い意味でのプレッシャーもありましたし、多くの選手が「ここぞ!」という場面で力を発揮できていたと思います。今回、僕も応援席にいらっしゃいましたOBの方に勧められて、競技人生で初の手拍子付きでヤリを投げましたが、意外に緊張せずに投げられるものですね。ムードも盛り上がりそうですし、来年もやろうと思います。

さて、七大戦が終わりまして、PCや主将などは交代となります。僕はもう実は主将だったりします。今までも副将でしたが、とうとう主将になってしまいました。責任という意味でやはり重くのしかかってきますので、潰されない程度に頑張ろうと思います。いえ、押し返すくらいに頑張ろうと思います。今後とも応援していただけると嬉しいです。

現副務がOB通信を作成しますのも今号で最後となると思います。今まで読んで下さったOB・OGの方々には大変感謝しております。次号からは後輩の副務が作成することになりますが、今後ともお読み頂けると嬉しいです。

文責 副務 杉本 和志